

異分野融合セミナー

Transdisciplinary Research Seminar

放射線障害軽減作用を有する 血小板減少症治療薬の作用機序

弘前大学 学長特別補佐
被ばく医療連携推進機構長

教授 柏倉 幾郎 先生



- 開催日時：2026年2月27日（金）10:00-11:00
- 会場：自然科学本館104講義室（どなたでもご参加できます）

放射線は、がん治療や研究分野で広く利用されている一方で、正常な細胞にも障害を与えることが知られています。特に造血系への影響は大きく、血小板減少症は放射線被ばく後に生じる重要な副作用の一つです。近年、血小板減少症の治療を目的として用いられている薬剤の中に、放射線による組織障害を軽減する作用を示すものが見出されており、既存薬の新たな機能として注目されています。しかし、これらの薬剤がどのような仕組みで放射線障害を抑制しているのかについては、まだ十分に理解されていません。本講演では、放射線障害軽減作用を有する血小板減少症治療薬に焦点を当て、その薬理作用と作用機序について、実験データを交えながら解説します。

本講演を通じて、放射線生物学や薬理学の基礎とともに、既存薬の新たな応用可能性について理解を深めていただければ幸いです。

問い合わせ先：

羽澤勝治, セルバイオノミックスユニット, mhazawa@staff.kanazawa-u.ac.jp
柘植陽太, バイオマスリファイナリーユニット, ytsuge@staff.kanazawa-u.ac.jp